M-AUDIO

HyperControl

for Cubase

日本語

ユーザーガイド

HyperControlについて 3
HyperControlの必要条件 4
Cubase 4 Software 4
Axiom Pro 4
HyperControlをインストールする 5
Axiom ProをHyperControlで使用する 7
CubaseをHyperControlで使用する 14
はじめに 14
HyperControlの表示とソフト・キー 15
Mixer(ミキサー)モード 16
インストゥルメント・モード 20

HyperControlについて

HyperControlとはAxiom Proに装備されたコントローラー（ノブ、ボタン、スライダー[1]等）をCubaseや全てのVSTプラグインの画面上のコントローラーやバーチャル・インストゥルメントに自動的にマッピングするパワフルな新しいテクノロジーです。この機能によりMIDIコントローラーを割り当てる膨大な時間と面倒な作業から解放され、音楽制作をより迅速でクリエイティブに進めることができます。

更に、HyperControlは双方向のコミュニケーション・プロトコルにより、Axiom Proのコントローラーと Cubaseは常に相互にシンク（同期）した状態を維持します。例えば、Axiom Proのノブを回すと、関連するCubaseのノブもそれに合わせて更新されます。逆に、Cubaseでコンピューターの画面上のノブを（マウスを使用して）回すと、関連するAxiom Proのパラメーター値（LCDディスプレイに表示）がそれに合わせて更新されます。バーチャル・インストゥルメントを新規にロードすると（または、同じインストゥルメントの中の別のプリセットをロードすると）、パラメーター名、様々なボタン、ノブ、スライダー等の位置情報が自動的に更新されAxiom Proの LCDディスプレイ上に表示されます。Axiom ProのノブやLCDディスプレイはCubaseと確実に統合されCubaseで現在何が進行中であるかを常に反映するため、専用コントローラー・サーフィスであるかのように機能します。

最後に、HyperControl機能はAxiom ProからMIDIデータのみを送信するだけではなく、ASCIIコードも送信することができ、Cubaseのキーボード・ショートカットを実行することができます。これによりAxiom ProはCubaseとより深く統合し、ズーム、マーカー、コピー、元に戻す等多くの機能をAxiom Proから直接コントロールすることができ、ソフトウエアをコンピューターのキーボードやマウスでコントロールする時間も節約できます。

従って、これらの機能によりCubaseを一層直感的に使用することができ、よりハンズオンなコントロールを可能にし、クリエイティビティの向上に役立ちます。

[1] Axiom 49/61でのみ使用可能

HyperControlの必要条件

Cubase 4 Software:

HyperControlを使用するにはCubase version 4.0以降が必要です。Cubaseの以前のバージョンではHyperControlテクノロジーはサポートされていません。

Axiom Pro:

HyperControlを使用するには、Axiom Pro本体がコンピューターに接続されている必要があり、ここでは、システムにAxiom Proが既にインストール済みで接続されていることを前提とします。インストールの方法についてはAxiom Proクイックスタートガイドを参照して下さい。

HyperControlをインストールする

✓ ***注意:****Cubaseが既に起動している場合、HyperControlのインストールを開始する前にアプリケーションを終了しておきます。以下の手順で指示があるまでCubaseを起動しないで下さい*

1. HyperControlテクノロジーを使用するには、Cubaseのサブフォルダーに Axiom Proの「パーソナリティ」を追加しておく必要があります。このファイルをインストールするには、Axiom Pro Cubase HyperControlインストーラーを起動して画面の指示に従います。
2. インストールが終了したらCubaseを起動します。
3. デバイス・メニューから「デバイス設定」を選択します。
4. ウインドウの左側のボックスから「リモート・デバイス」を選択します。
5. 画面左上の「+」ボタンをクリックして「M-Audio Axiom Pro」を選択します。
6. ドロップダウン・メニューから「MIDI入力」をクリックして「Axiom Pro HyperControl In」[2]端子を選択します。
7. ドロップダウン・メニューから「MIDI出力」をクリックして「Axiom Pro HyperControl Out」[2]端子を選択します。

上記の手順が終了したら、「OK」をクリックします。これでHyperControlテクノロジーを使用してAxiom ProでCubaseをコントロールすることができます。

[2] Windows XP/VistaまたはMac OS X 10.4（Tiger）で使用する:

Axiom ProをWindows XP/VistaまたはMac OS X 10.4（Tiger）で標準ドライバー（USB MIDIドライバ）にて使用する（M-Audioのドライバーをインストールしない）場合、コンピューターではAxiom ProのMIDI端子の名前は正しく表示されません。

Windows XP/Vista:

名前を正しく表示させるには、製本版クイックスタートガイドに記載されている手順に従いドライバーをインストールします。

Mac OS X 10.4（Tiger）:

Macで使用する場合、Mac OS Xに搭載されている標準ドライバー（USB MIDIクラスドライバ）はAxiom Proの全ての機能をサポートするため、ドライバーをインストールする必要はありません。各端子の名前については以下の表を参考にして下さい。

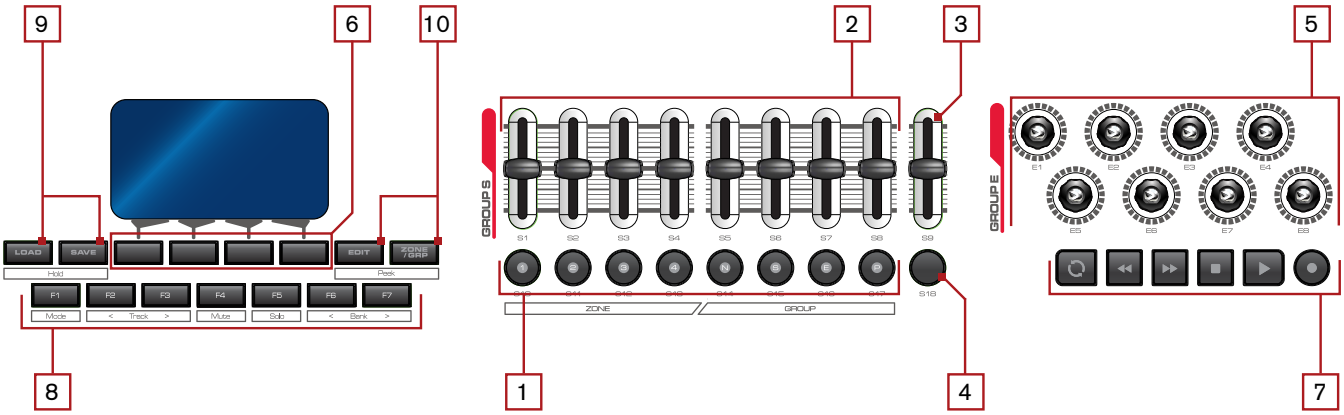
オペレーティング・システム別Axiom ProをOS標準ドライバーで使用する場合の端子名

Macintosh		
Axiom Pro MIDI 入力端子	**Mac OS X 10.4 MIDI 入力端子**	**Mac OS X 10.5 MIDI 入力端子**
Axiom Pro 61[3] USB A In	Axiom Pro 61 Port 1	Axiom Pro 61 USB A In
Axiom Pro 61[3] HyperControl In	Axiom Pro 61 Port 2	Axiom Pro 61 HyperControl In
Axiom Pro 61[3] MIDI In	Axiom Pro 61 Port 3	Axiom Pro 61 MIDI In
Axiom Pro 61[3] USB B In	Axiom Pro 61 Port 4	Axiom Pro 61 USB B In
Axiom Pro MIDI出力端子	**Mac OS X 10.4 MIDI 出力端子**	**Mac OS X 10.5 MIDI 出力端子**
Axiom Pro 61[3] MIDI Out	Axiom Pro 61 Port 1	Axiom Pro 61 MIDI Out
Axiom Pro 61[3] HyperControl Out	Axiom Pro 61 Port 2	Axiom Pro 61 HyperControl Out

Windows		
Axiom Pro MIDI 入力端子	**Windows XP MIDI 入力端子**	**Windows Vista MIDI 入力端子**
Axiom Pro 61[3] USB A In	USB Audio Device	Axiom Pro 61
Axiom Pro 61[3] HyperControl In	USB Audio Device [2]	MIDIIN2 Axiom Pro 61
Axiom Pro 61[3] MIDI In	USB Audio Device [3]	MIDIIN3 Axiom Pro 61
Axiom Pro 61[3] USB B In	USB Audio Device [4]	MIDIIN4 Axiom Pro 61
Axiom Pro MIDI 出力端子	**Windows XP MIDI 出力端子**	**Windows Vista MIDI 出力端子**
Axiom Pro 61[3] MIDI Out	USB Audio Device	Axiom Pro 61
Axiom Pro 61[3] HyperControl Out	USB Audio Device [2]	MIDIOUT2 Axiom Pro 61

[3] 上記のMIDI端子名は、使用しているAxiom Proのモデル（Axiom 25、49、61）に従い、対応するキーの番号を表示します。

Axiom ProをHyperControlで使用する

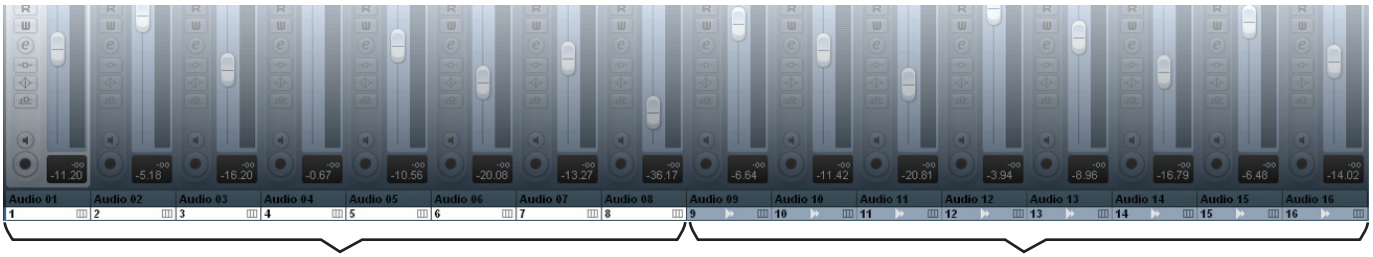


1. **スライダー・ボタン**[4] – これらのボタンによりCubaseでトラックの選択、録音、ミュート、ソロ等を操作することができます。デフォルトでは、これらのボタンでミキサー・チャンネルを選択しますが、フリップ・ボタンを押す度に、その他3つの機能(録音、ミュート、ソロ)に順次、切替わります。

   コンピューターのキーボードで「Ctrl」キーを押しながらスライダー・ボタンを押すと、複数のミキサー・チャンネルを選択することができ、また、コンピューターの「Shift」キーを押しながらスライダー・ボタンを押すと、ミキサー・チャンネルをまとめて選択することができます。例えば「Ctrl」キーを押しながらスライダー・ボタンの「1」と「5」を押すと、Cubaseのミキサー・チャンネル1番と5番が選択されます。また、「Shift」キーを押しながらスライダー・ボタンの「1」と「5」を押すと、Cubaseのミキサー・チャンネル1番から5番までがまとめて選択されます。

   ✓ ヒント: Axiom Proのドラム・パッドやテンキー・パッドでコンピューターのキーボードのキー操作(「Ctrl」や「Shift」等)を再現するよう設定することができます。これにより、Axiom Proから直接(コンピューターのキーボードを使用せずに)、Cubaseの複数のミキサー・チャンネルを選択することができるようになります。設定方法についてはAxiom Proユーザーガイドの「エディット・モード>グループ(テンキー・パッド)」のセクションを参照して下さい。

2. **スライダー**[4] – これらのスライダーではCubaseのミキサーに装備されている8系統のフェーダー・バンクをコントロールします。Axiom Proで現在コントールできるトラックは、以下の通りトラック名が白くハイライトされていることに注意して下さい。



3. **マスター・スライダー**[4] – このスライダーは自動的にCubaseプロジェクトのMain Mixバスにマッピングされます。

[4] *Axiom Pro 49/61でのみ有効な機能.*

4. **フリップ・ボタン[5] –** HyperControlでAxiom Proを使用する場合、ミキサー・モードとインストゥルメント・モードの2種類のモードで使用することができます。このフリップ・ボタンの機能は、使用する2種類のモードに従い変化します（FキーのF1でモードを切替します）。詳細は後述の「Fキー」のセクションを参照して下さい。

   ミキサー・モード:
   Axiom Proをミキサー・モードで使用すると、フリップ・ボタンはスライダー・ボタンの機能を切替えます。デフォルトでのスライダー・ボタンはCubaseプロジェクトのチャンネルを選択しますが、フリップ・ボタンを押すと、スライダー・ボタンで操作が可能なその他の機能に順次切替わります。フリップ・ボタンを押すと、スライダー・ボタンの機能はLCDディスプレイの左下に表示されます。

   インサート/インストゥルメント・モード:
   Axiom Proをインストゥルメント・モードで使用する時、Axiom ProのスライダーはCubaseのトラックのボリューム・レベルをコントロールし、エンコーダー・ノブは選択されているインサート・プラグインまたはバーチャル・インストゥルメントのパラメーターをコントロールします。フリップ・ボタンはエンコーダー・ノブとスライダーの機能を入替え（または「フリップ」）ます。これによりAxiom Proのスライダーでインサートやバーチャル・インストゥルメントの設定を調整することができ、エンコーダー・ノブでトラックのレベルをコントロールすることができます。

   このボタンを使用してフェーダーの機能の入替えの有効/無効を切替えることができます。このモードを有効にすると、LCDディスプレイの左下に「Flip Faders On」が表示されます。

   ✓ ***注意:****ミキサー・モードに切替えると、フリップ・フェーダー・モードはキャンセルされます。*

5. **エンコーダー・ノブ:**これらのノブはAxiom Proで現在選択されているCubaseのトラックのパラメーター（パン、センド・レベル等）や、インサート・プラグインやバーチャル・インストゥルメントのコントローラーのパラメーターに自動的にマッピングされています。他のトラックやインサート、インストゥルメントのパラメーターを選択してエンコーダー・ノブでコントロールする方法については、本ガイドの「CubaseをHyperControlで使用する」のセクションを参照して下さい。

6. **ソフト・キー –** これらの4つのボタンは、LCDディスプレイの下部に表示されているページに対応し、Cubaseのトラックの様々なパラメーター（ボリューム、パン、インサート設定やセンド・レベル等）やバーチャル・インストゥルメントの設定にアクセスすることができます。詳細は後述の「HyperControlの表示とソフト・キー」のセクションを参照して下さい。

7. **トランスポート・コントロール –** これらのボタンはCubaseのトランスポートにマッピングされ、他用途にも使用します。:

Axiom Proコントローラー	Cubaseでの機能
	サイクルの有効化。このボタンではCubaseのトランスポートで指定された左右のロケーター間のサイクルの有効/無効を切り替えます。
	巻戻し。このボタンを押すと、再びボタンを押すまでトランスポートを巻戻します。ボタンをホールドすると、Cubaseのトランスポートを巻戻し、ボタンから手を離すと解除されます。
	早送り。このボタンを押すと、再びボタンを押すまでトランスポートを早送りします。ボタンをホールドすると、Cubaseのトランスポートを早送りし、ボタンから手を離すと解除されます。
	停止。このボタンは録音または再生を停止します。このボタンを再び押すと、録音または再生が最初に開始した時点にプロジェクトのポジションをリセットします。テイクを再録音する場合や、任意のセクションを聞く場合に有効な手段です。
	再生。このボタンを押すと再生が開始します。
	録音。このボタンを押すと、録音が有効になっている全てのトラックで録音を開始します。

[5] *Axiom Pro 49/61のみで有効な機能。*

8. **Fキー –** これらのボタンではCubaseをナビゲートすることができ、マウスやコンピューターのキーボードを使用せずに様々なタスクを実行することができます。

✓ Axiom Pro 25:

Axiom Pro 25は本体スペースに限りがあるため専用のFキーが装備されていません。このため、上段の「F-Keys」ボタンを押してソフト・キー（下段のボタン）をFキーに変換する必要があります。Axiom Pro 25ではFキーの1から4（モード、<トラック、トラック>、ミュート）のみがサポートされ、Fキーの5から7（ソロ、<バンク、バンク>）には対応しません。

F1（モード） HyperControlを使用している時、Axiom Proはミキサー・モードとインストゥルメント・モードの2種類のモードで使用することができます。このボタンで2つのモードを切替えます。

F2（<トラック） このボタンではCubase内で1つ前のトラックを選択して録音を有効にします。例えば、トラック8が現在選択されている状態でこのボタンを押すと、トラック7が選択されて録音が可能になります。現在選択されているトラック名は白くハイライトされます。

F3（トラック>） このボタンではCubase内で次のトラックを選択して録音を有効にします。例えば、トラック1が現在選択されている状態でこのボタンを押すと、トラック2が選択されて録音が可能になります。現在選択されているトラック名は白くハイライトされます。

F4（ミュート） このボタンはCubaseで現在選択されているトラックをミュート（消音）します。

F5（ソロ） このボタンはCubaseで現在選択されているトラックをソロにします。

F6（<バンク） Axiom Proで現在コントロールされている全てのCubaseのトラック名が青枠内に表示されます。このボタンは一つ前の8トラックを選択します。例えば、現在トラック9～16が青枠で囲まれている状態でこのボタンを押すと、トラック1～8が選択されます。

F7（バンク>） Axiom Proで現在コントロールされている全てのCubaseのトラック名が青枠内に表示されます。このボタンは次の8トラックを選択します。例えば、現在トラック1～8が青枠で囲まれている状態でこのボタンを押すと、トラック9～16が選択されます。

✓ Axiom Pro 25使用時の注意:

Axiom Pro 25にはバンク・ボタンが装備されていませんが、「<トラック」と「トラック>」（F2とF3）を使用してバンクを選択して現在選択されているバンク以外の場所にあるトラックを選択することができます。例えば、現在のバンクで一番右にあるトラックを選択し、「トラック>」ボタンを押すと、次のバンクが有効になります。また、現在のバンクで一番左にあるトラックを選択し、「<トラック」ボタンを押すと、一つ前のバンクが有効になります。

9. **Load Button（ロード）ボタン –** このボタンを押すとプロンプト画面が表示され、保存されているAxiom Proのパッチをロードすることができます。パッチをロードする方法については、Axiom Proユーザーガイドの「ファンクション・キーとソフト・キー」のセクションを参照して下さい。

Save（保存）ボタン – このボタンを押すとプロンプト画面が表示され、Axiom Proの現在の設定を保存することができます。パッチの保存方法については、Axiom Proユーザーガイドの「ファンクション・キーとソフト・キー」のセクションを参照して下さい。

Hold（ホールド）（Load + Saveボタン） – デフォルトではLCDディスプレイに最後に使用したコントローラーの位置と状態が表示されます。例えば、LCDディスプレイにはドラム・パッドのグループの状態が表示されていて、エンコーダー・ノブを回すとLCDディスプレイの表示はエンコーダー・グループに切替わり、回したエンコーダー・ノブがハイライトされLCDディスプレイの左下にエンコーダーに関連するパラメーターと数値が表示されます。

場合によってはLCDディスプレイに表示されている内容をホールドして、他のグループのコントローラーを動かした時にLCDディスプレイの表示がアップデートされないようにすることができます。この場合、「Save」と「Load」ボタンを同時に押し続けます。

LCDディスプレイをロックすると、ロックされているグループ以外のコントローラーを動かしても、コントローラーのパラメーター名とパラメーター値が画面に表示されますが、LCDディスプレイに表示されるテキストはそれ以前の状態を維持します。

SaveボタンとLoadボタンを再び同時に押すとホールド機能が解除されます。

パッチが必要な理由を教えて下さい。HyperControlが自動的にコントローラーを割り当てるのではないのですか?

HyperControlテクノロジーは自動的にAxiom Proのコントローラーの割当てを実行し、多くの場合、Axiom Proのパッチをロードしたり保存したりする必要はありません。但し、カスタマイズしたパッチを使う必要が生じる場合もあります。

1. 外部MIDIハードウエアを使用する:Cubaseを使用してハードウエアMIDI機器(シンセサイザー、サンプラー等)をコントロールする場合、ハードウエアMIDI機器のパラメーターにAxiom Proのコントローラー(エンコーダー・ノブ、スライダー[6]等)のMIDI CC値を割り当てるようカスタマイズしたパッチをロードする必要があります。

   ✓ ***注意:****外部MIDI機器をコントロールする場合、「HyperControl」のパラメーターは「Transport」に設定しておく必要があります。設定方法についてはAxiom Proユーザーガイドの「エディット・モード(メイン・メニュー)」のセクションを参照して下さい。*

2. パフォーマンス・コントローラー(ドラム・パッド、キーボード・ゾーン、サスティーン/エクスプレッション・ペダル等)やテンキー・パッド[6]を割り当てる.

   テンキー・パッドは自動的に割り当てられないため、HyperControlを使用する時でもAxiom Proのコントローラーを自分のスタイルに合わせてカスタマイズすることができます。例えば、Cubaseのキーボード・ショートカットを Axiom Proのテンキー・パッドに割り当てることができます。但し、Axiom Proには有効なファクトリー・パッチが数多く搭載され、使用する機能が既にテンキー・パッドに割り当てられている場合もありますので、テンキー・パッドをカスタマイズする前に確認して下さい。各ファクトリー・パッチを設定する方法については、Axiom Proユーザーガイドの付録Aを参照して下さい。

   パフォーマンス・コントローラーはHyperControlで自動的に割り当てられないため、ノートやゾーン、その他の割当てを自在に設定することができます。例えば、バーチャル・インストゥルメントを使用すると、特定のMIDIノートやベロシティー値を送出するようパッドを割り当てる必要が生じる場合があります。また、キーボードのゾーンを特定のタスクを実行するために特別な方法で設定することもできます。これはエディット・モードで設定することができます。設定方法についてはAxiom Proユーザーガイドを参照して下さい。

3. CubaseとそのほかのDAWを平行して使用する場合、Axiom Proは、CubaseとそのほかのDAWで同時に並行して使用することができます。この状態で作業を進めるには、CubaseではHyperControlを利用し、そのほかのDAWでは標準的なMIDIメッセージを使用してコントロールします(Axiom Proは「従来の」MIDIコントローラー・キーボードとして動作します)。

   ✓ ***注意:****CubaseとそのほかのDAWを平行して使用する場合、「HyperControl」のパラメーターは「Transport」に設定しておく必要があります。設定方法についてはAxiom Proユーザーガイドの「エディット・モード(メイン・メニュー)」のセクションを参照して下さい。*

[6] Axiom Pro 49/61でのみ有効。

10. Edit（エディット・ボタン）– このボタンではエディット・モードの有効/無効を切替えます。

HyperControlを使用すると、Axiom Proのコントローラー（ボタン、ノブ、トランスポート・コントロール等）の多くは、自動的にコンピューターの画面上のコントローラーに割当てられます。但し、エディット・モードを使用して、テンキー・パッドとパフォーマンス・コントローラー（ドラム・パッド、キーボード・ゾーン、サスティーン/エクスプレッション・ペダル等）を自在にカスタマイズすることができます。

このモードはAxiom Proユーザーガイドの「エディット・モード」のセクションで詳しく解説されています。

✓ ***注意:*** *Axiom Proのトランスポート・コントロールのみをCubaseにマッピングして、その他全てのコントローラー・グループ（エンコーダー・ノブ、スライダー[7]、ボタン等）は従来のMIDIコントローラーと同様の動作をするようHyperControlで設定することもできます。標準的なMIDI CCデータのようなカスタマイズされたMIDIメッセージを送信することができるため、外部MIDIヘードウエア機器（シンセサイザー等）へルーティングされるMIDIトラックの作業をしている場合に有効な手段です。*

設定方法は、まずエディット・モードを有効にし、メイン・メニューの「HyperControl」のパラメーターを「Normal」から「Transport」に変更します。詳細についてはAxiom Proユーザーガイドの「エディット・モード（メイン・メニュー）」のセクションを参照して下さい。

HyperControlが有効の時、HyperControlモードでは「Normal」（通常）と「Transport」（トランスポート）の2つのパラメーターを切替えて使用します。HyperControlの割当てとコントロールする外部MIDI機器に特別に合うようカスタマイズしたコントローラーの割当ての追加のセットとを切替えて使用することができます。

11. Zone/Group（ゾーン/グループ）ボタン – このボタンはスライダー（Axiom Pro 49/61）またはトランスポート・コントロール（Axiom Pro 25）の下にあるボタンの機能を切替えて、パフォーマンス・グループとゾーンを選択することができます。ボタンが点灯していない時（ボタンが押されていない状態）、関連するボタンからはHyperControlのコマンドが送出されます。ボタンを押すと点灯し、関連するボタンを使用してゾーンとグループの有効/無効を切替えることができます。詳細についてはAxiom Proユーザーガイドの「エディット・モード>ゾーン」のセクションを参照して下さい。

Peek（ピーク）（Edit + Zone/Groupボタン） – EditボタンとZone/Groupボタンを同時に押すと、Axiom ProのLCDディスプレイの現在の表示内容に関らず、エンコーダー・ノブの割当てのリストが常に表示されます。例えば、LCDディスプレイにノブのポジションが表示された状態で、「Home」のページを表示してCubaseのトラック名やインサート/バーチャル・インストゥルメント・プラグインのノブの割当てを確認するには、EditボタンとZone/Groupボタンを同時に押します。

ピーク機能では特定のノブの現在のパラメーター値をCubaseで関連するパラメーターを変更せずに確認することができます。確認を実行するには、確認するコントローラーを動かしながら、EditボタンとZone/Groupボタンを押し続けます。これで、Cubaseのトラック、インサート、バーチャル・インストゥルメントには何ら変更を加えることなく、動かしたコントローラーの現在のパラメーター値がリストされます。

[7] *Axiom Pro 49/61でのみ有効。*

12. **テンキー・パッド[8] –** テンキー・パッドのボタンを使用して、コンピューターのキーボードと同様にMIDIコマンドやASCIIメッセージ(コンピューターのキーボードと同様のもの)を送信することができます。ASCIIメッセージはCubaseの「キーボード・ショートカット」に対応し、Axiom Proから直接(コンピューターのキーボードを使用せずに)Cubaseの様々な機能にアクセスすることができます。

Axiom Proにはこれらのボタンを一般的なDAWにマッピングするよう予めプログラムされたパッチが含まれています(これらのパッチのリストはAxiom Proユーザーガイドの付録Aを参照して下さい)。例えばCubaseでHyperControlを使用して、プリセット15(Mac)またはプリセット16(PC)をロードするとテンキー・パッドで下表の機能を実行することができます:

Axiomテンキー・パッド	**Cubaseでのデフォルト機能**[9] (MacではプリセットI5; WindowsではプリセットI6)
1	プロジェクトの保存
2	元に戻す
3	ミキサー・ビューの切り替え
4	選択部分を複製
5	プロジェクトの開始部分に移動
6	選択部分をサイクル
7	Axiom Proのテンキー・パッド「8」と「9」を押しながら7をホールドして左のロケーターと右のロケーターをそれぞれ設定します。
8	左のロケーターに移動
9	右のロケーターに移動
— (Minus)	ズーム・アウト(横方向)
0	メトロノームのオン/オフを切り替え
+ (Plus)	ズーム・イン(横方向)

テンキー・パッドのボタンにカスタマイズしたパッチを作成する方法については、Axiom Proユーザーガイドの「エディット・モード>コントロール」セクションを参照して下さい。

✓ ヒント: Axiom Proをエディット・モードで使用する場合、テンキー・パッドを使用してAxiom Pro 49/61で数値を素早く入力することができます。Axiom Pro 25ではキーボードの黒鍵を使用して数値を入力することができます(キーボードの黒鍵を左から右へ0から9の範囲で使用)。

[8] *Axiom Pro 49/61でのみ有効*

[9] ***注意:****Axiom Proのプリセットは Cubaseのデフォルトのショートカットで動作するようデザインされています。ショートカットをカスタマイズした場合、Axiom Proのテンキー・パッドのボタンをカスタマイズしたショートカットに対応するようプログラムをし直す必要があります。この方法についてはAxiom Proユーザーガイドの「エディット・モード>コントロール」のセクションを参照して下さい。*

CubaseをHyperControlで使用する

はじめに

HyperControlはCubase、プラグイン、バーチャル・インストゥルメントをコンピューターのマウスやキーボードをほとんど（または全く）使用することなく、直感的にコントロールできるようデザインされています。

トランスポート・コントロールではCubaseのトランスポートに瞬時にアクセスして、プロジェクトの再生、停止、録音、サイクルやその他多くのタスクをAxiom Proのキーボードから直接操作することができます。

F1からF7までのFキー（Axiom Pro 25ではF1からF4）ではマウスを使用せずにCubaseプロジェクトのトラックを選択、ソロ、ミュートをすることができます。F2とF3（トラック）キーでトラックを選択すると、Cubase内でトラック名がハイライトされ、自動的に録音可能となりレコーディングを素早く開始することができます。これらのキーについては8ページで詳しく解説しています。

スライダー・ボタン[10]はフリップ・ボタン[10]と組み合わせて使用し、Cubaseミキサー内のチャンネルを選択、ミュート、ソロすることができます。この操作方法については7ページを参照して下さい。

Axiom Proのスライダー[10] 8系統は、通常、Cubaseミキサーの選択したトラックのレベルをコントロールします。Fキーのうち F2とF3（トラック）またはF6とF7（バンク）のキーを使用してAxiom Proのスライダーで現在コントロールされているCubaseのチャンネルを選択することができます（Cubase側で有効なチャンネル名は白くハイライトされます）。

Axiom Proの一番右にあるフェーダー[10] ではCubaseミキサーのMain Mixバスのレベルをコントロールします。

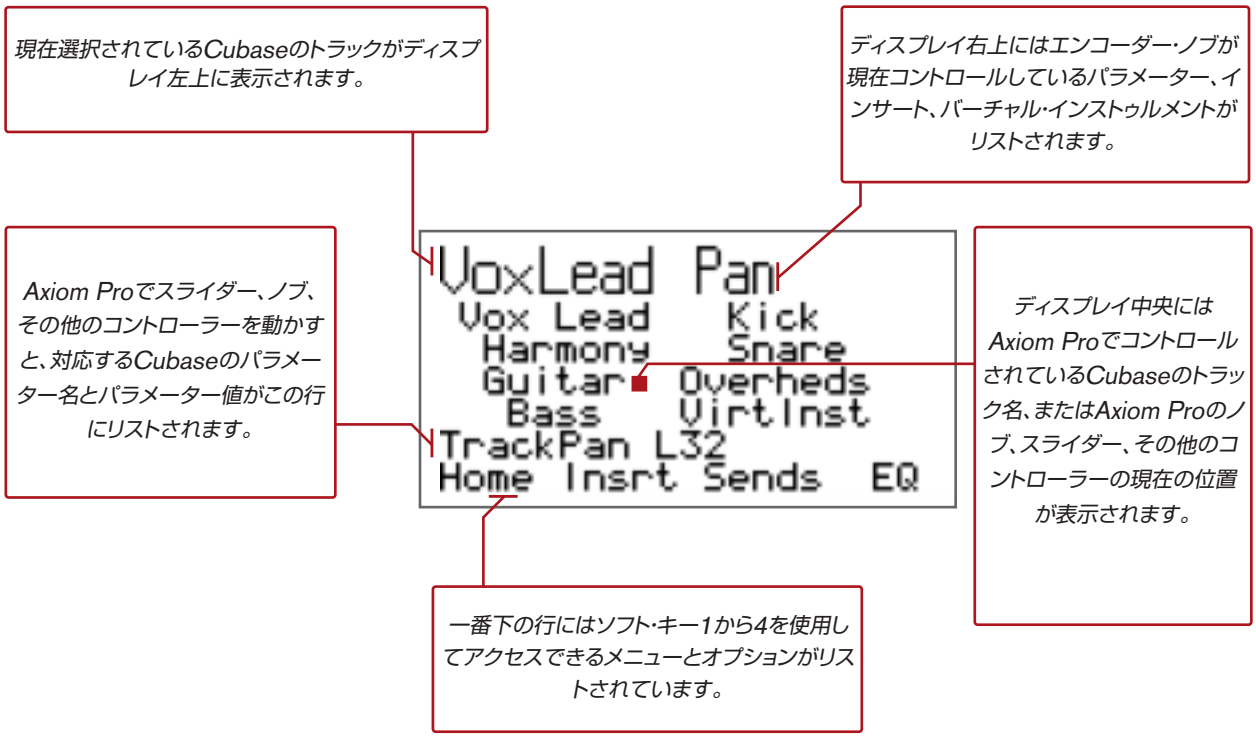
最後に、ソフト・キーを使用して新しいページ（「Home」、「Ins」、「Sends」、「EQ」のページ）に切替える度に、LCDディスプレイにはCubaseのトラック名のリストや、エンコーダー・ノブでコントロールするインサート/バーチャル・インストゥルメントのリストが表示されます。Axiom Proでいずれかのコントローラー（パッドやスライダー等[10]）を動かすと、LCDディスプレイには現在使用しているコントローラーのポジションとグループ名の表示が更新されますが、エンコーダー・ノブは「Home」のページに表示されていたパラメーターを引き続きコントロールします。「Home」ページへ戻って、各エンコーダー・のブの割当てを確認するにはAxiom Proで「Edit」ボタンと「Zone/Group」ボタンを同時に押します。

[10] Axiom Pro 49/61でのみ有効

HyperControlの表示とソフト・キー

HyperControlは、プロジェクト、ミキサー、プラグイン/バーチャル・インストゥルメントの内いずれのウインドウが現在選択されていても、どのウインドウからでもCubaseをコントロールすることができます。但し、Axiom ProのLCDディスプレイとコントローラーはコンピューターのモニターが音楽のアレンジの作業を行っている時にCubaseのミキシング機能に対応することができるため、シーケンシング環境の（つまり、プロジェクト・ウインドウで作業をしている）時にCubaseをコントロールするのが理想的です。

下表はデフォルトの「ホーム」ページ:



上記の例のうち右上のボックスに解説されている通り、このページではエンコーダー・ノブを使用してCubaseのトラックのパンの位置を設定することができます。Cubaseのプロジェクトのトラック名は2列に渡り表示されます（上記の例では「Vox Lead」から「VirtInst」まで）。これらのトラックは現在Axiom Proのエンコーダーでコントロールされています。左の列（Vox Lead、Harmony、Guitar、Bass）はエンコーダー・ノブE1からE4に対応し、右の列（Kick、Snare、Overheds、VirtInst）はエンコーダー・ノブE5からE8に対応しています。

Axiom Proのソフト・キーはディスプレイの下部にリストされている通り、この他のHyperControlのページ4種類（「Home」、「Ins」、「Sends」、「EQ」）を選択することができます。新規のページをロードすると、エンコーダー・ノブは自動的に新しくロードしたページにリストされているパラメーターにマッピングされます。例えば、上図ではソフト・キー3（Sends）を押すとHyperControlのセンドのページにアクセスすることができ、エンコーダー・ノブを使用してCubaseミキサーで割り当てられているセンド・レベルをコントロールすることができます。

エンコーダー・ノブがCubaseのパラメーターのいずれかをコントロールするよう割り当てられていない時、ノブを回してもAxiom Proのディスプレイにも Cubaseのプロジェクトにも影響はありません。

✓ Axiom Pro 49/61のスライダーについて教えて下さい。

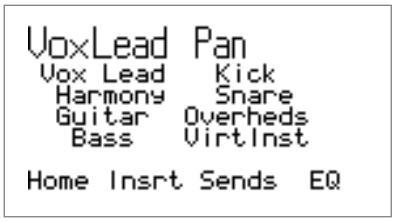
Axiom Pro 49/61のスライダーは常にCubaseで選択されているトラックのボリューム・フェーダーをコントロールします。ソフト・キー1から4を使用して現在ロードされているページが何であるかに関係なく、ボリュームをコントロールします（ロードされているページはエンコーダー・ノブにのみ影響します）。

唯一の例外はAxiom Proが「インストゥルメント」モードまたは「インサート」モードで「Flip Faders（フェーダーの入れ換え）」モードが有効の時です。Flip Faders（フェーダーの入れ換え）モードを有効にすると、スライダーを使用してインサートやバーチャル・インストゥルメントのパラメーターをコントロールし、エンコーダー・ノブを使用してトラックのレベルを設定します。

Mixer(ミキサー)モード

HyperControlメニューは以下の通りです:

1. 「Home」ページ

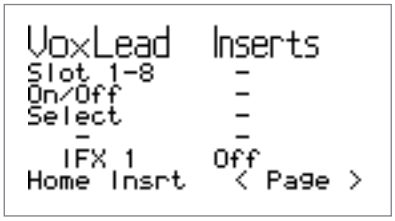


これがHyperControlの「Home」(ホーム)ページです。ホーム・ページではAxiom Proのエンコーダー・ノブはCubaseのミキサー・チャンネルのパンの位置をコントロールするよう割当てられています。

Axiom Pro 25にはスライダーが装備されていないため、「Home」のソフト・キーを押すと、「Home」(トラック・ボリューム・コントロール)と「Pan」(パン・コントロール)のページを切替えることにより、エンコーダー・ノブを使用してトラックのレベルとパンの位置をコントロールします。

ソフト・キー2から4(Ins、Send、EQ)を押すとHyperControlのInserts(インサート)、Sends(センド)、EQのページが表示されます。以下に解説します。

2. 「Ins」(インサート)のページ



「インサート」のページではAxiom Proを使用してインサート・プラグインをロードしコントロールすることができます。

ソフト・キー2(Insrt)を押すとAxiom ProのLCDディスプレイには「メニュー」画面(上図)が表示されます。この画面ではインサート・スロットを選択し、有効なプラグインを選択し、プラグインのオン/オフを切り替えることができます:

■ *インサート・スロットを選択する:*

Cubaseのミキサーには各チャンネルにインサート・スロット8系統が装備されています。エンコーダー・ノブ1を使用してプラグイン・エフェクトをインサートするスロットを選択します。スロット番号はLCDディスプレイの左下に表示されます(「IFX 1」、「IFX 2」等)

- プラグインを含まないスロットを選択すると、LCDディスプレイの右下に「No Effec」と一瞬、表示されます。
- プラグインを含むスロットを選択すると、プラグイン名がLCDディスプレイの右下に表示されます。

■ *プラグインを選択する:*

エンコーダー・ノブE3を使用してCubaseで有効なプラグインを順次確認することができます。エンコーダー・ノブを回すのをやめると(エンコーダー・ノブから手を離すと)、約1秒後にCubaseは選択したプラグインをロードしてコンピューターの画面に表示します。

✓ ヒント: プラグインをインサート・スロットから削除するには、エンコーダー・ノブE3をLCDディスプレイに「No Effec」と表示されるまで左(時計と逆回り)に回します。これでインサート・スロットからプラグインを削除することができます。

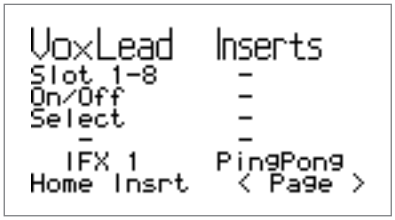
■ *プラグインのオン/オフを切り替える:*

プラグインを含むインサート・スロットを選択したら、エンコーダー・ノブE2を使用してプラグインのオン/オフを切り替えることができます。エンコーダー・ノブを右に回すとエフェクト・プラグインが無効になり、左に回すとエフェクト・プラグインが有効になります。

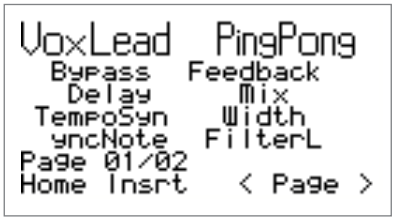
✓ ***注意:****選択したインサート・スロットにプラグインが含まれていない場合、エンコーダー・ノブE2を回しても影響はありません。*

■ *Axiom Proのエンコーダー・ノブでプラグインをコントロールする*

- エンコーダー・ノブE1を使用して、適切なプラグインが含まれるインサート・スロットを選択します。下図の例ではCubaseの「PingPong Delay」プラグインがロードされています:



- ソフト・キー4(Edit)を押してプラグインのパラメーター(下図)を確認します:



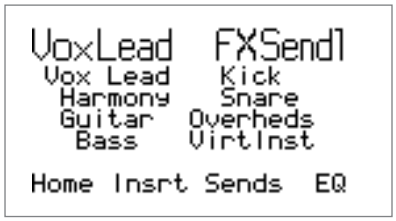
プラグインのパラメーターは左右2列にリストされ、Axiom Proのエンコーダー・ノブに自動的にマッピングされます。左のコラムはエンコーダー・ノブE1からE4にマッピングされ、右のコラムはE5からE8にマッピングされています。例えば、プラグインのディレイ・タイムを変更するには、エンコーダー・ノブE2を回します。プラグインのフィードバックの量を変更するには、エンコーダー・ノブE5を回します。

プラグインの複数のページに渡りパラメーターが含まれていれば、ソフト・キー3と4(「<Page」と「Page>」)を使用して、パラメーターの全てのページを順次表示することができます。ページ番号はLCDディスプレイの左下に表示されます。

- インサートのメニュー画面に戻るには、プラグイン・パラメーターの最初のページに戻りソフト／キー3(Page<)を押します。

ソフト・キー1(Home)を押すとHyperControlのホーム・ページに戻ります。

3. 「Sends」（センド）ページ



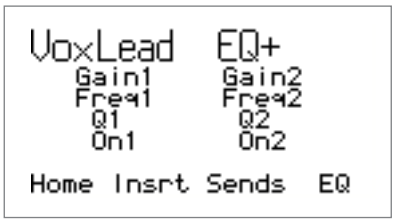
Send（センド）のページではエンコーダー・ノブを使用してCubaseのミキサー・トラックのエフェクト・センドのレベルを設定することができます。ソフト・キー3（Sends）を押す度に、スロットを順次確認することができます。現在のエフェクト・センド・スロット（FXSend 1、FXSend 2等）はLCDディスプレイ右上にリストされています。

エンコーダー・ノブはCubaseの全てのチャンネルで同じセンドのスロットをコントロールすることに注意して下さい。例えば、「Send 1」が選択されたトラック1から8に割当てられていれば、エンコーダー・ノブE1を回すとチャンネル1のセンド1スロットのレベルに影響し、エンコーダー・ノブE2を回すとチャンネル2のセンド1スロットのレベルに影響するという具合です。

✓ ***注意:***センドのページを使用するには、その前にCubaseミキサー・チャンネルでセンドを割り当てて有効にしておく必要があります。センドが割り当てられていないと、エンコーダー・ノブを回してもCubaseの方では（Axiom ProのLCDディスプレイでも）何の影響も受けません。

ソフト・キー1（Home）またはソフト・キー2（Ins）を押すと、それぞれHyperControlのHomeページまたはInsertページに切替わります。

4. 「EQ」のページ



EQのページではCubaseミキサーの4帯域チャンネルEQにアクセスすることができます。

HyperControlにはチャンネルEQのページが2ページあります。1ページ目はCubaseのEQ1とEQ2をコントロールし、2ページ目はEQ3とEQ4をコントロールします。ソフト・キー4（EQ）を押すと、EQ1とEQ2を含む1ページとEQ3とEQ4を含む2ページを交互に表示します。

左の列はエンコーダー・ノブE1からE4（EQ1または3）に割り当てられ、右の列はエンコーダー・ノブE5からE8（EQ2または4）に割当てられています。

各帯域には4つのパラメーターが含まれています。

Gain（ゲイン） このパラメーターは関連するEQ帯域のゲイン・レベルをコントロールします。エンコーダー・ノブE1/E5を右に回すとゲイン・レベルが上がり、左に回すとゲイン・レベルが下がります。

Freq（周波数） このパラメーターは関連するEQ帯域のセンター周波数をコントロールします。エンコーダー・ノブE2/E6を右に回すとセンター周波数が上がり、左に回すとセンター周波数が下がります。

Q このパラメーターは関連するEQ帯域の幅または「Q」をコントロールします。コエンコーダー・ノブE3/E7を右に回すとフィルターのQが増え（狭くなる）、左に回すとフィルターのQが減ります（広くなる）。

On このパラメーターは関連するEQ帯域の有効/無効を切り替えます。エンコーダー・ノブE4/E8を右に回すと任意のEQ帯域が有効になり、左に回すとその帯域をバイパスします。

✓ ヒント：デフォルトではEQ1がロー・シェルフ、EQ4がハイシェルフ、EQ2と3EQがパラメトリックになるよう設定されています。EQ帯域は変更することができます。変更方法についてはCubaseの取扱説明書を参照して下さい。

ソフト・キー1（Home）、ソフト・キー2（Insrt）、ソフト・キー3（Sends）を押すと、それぞれHome（ホーム）、Insert（インサート）、HyperControlのページに飛びます。

インストゥルメント・モード

HyperControlを使用するとAxiom Proはミキサー・モードとインストゥルメント・モードの2種類のモードで動作します。本ガイドの前項ではミキサー・モードについて説明しましたが、このセクションではインストゥルメント・モードについて説明し、バーチャル・インストゥルメントのハンズオンなコントロールを実現するためのHyperControlとAxiom Proの操作方法を解説します。

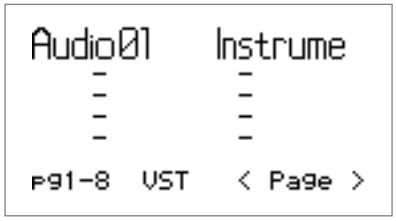
インストゥルメント・モードを使用する:

1. Cubaseでバーチャル・インストゥルメントトラックを作成する(作成方法についてはCubaseの取扱説明書を参照して下さい)。

2. バーチャル・インストゥルメントを含むトラックがCubaseで選択されていることを確認します(例えば、Axiom ProのF2とF3「Track」キーを押すか、バーチャル・インストゥルメントに割当てられているCubaseのMIDIトラック名をクリックする)。

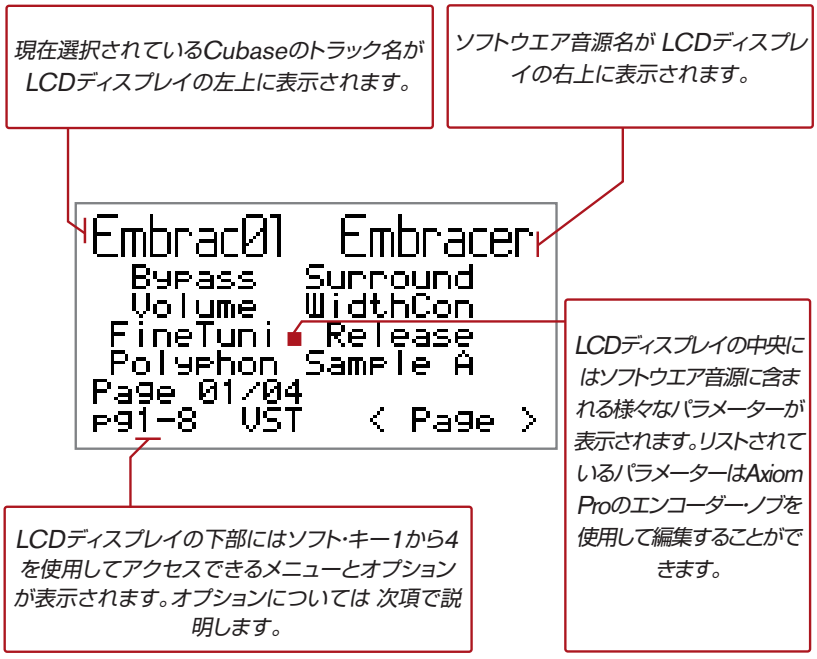
3. 最後にF1「Mode」(モード)ボタンを押してインストゥルメント・モードを有効にします(再び「Mode」を押すとミキサー・モードに戻ります)。

✓ ***注意:****インストゥルメント・モードが有効でバーチャル・インストゥルメントが選択したトラックにロードされていない場合、画面中央が空白になります。例えば、オーディオまたはグループのトラック(またはCubaseでバーチャル・インストゥルメントにルーティングされていないMIDIトラック)を選択すると、以下の図に類似する画面が表示されます。*



インストゥルメント・モードを使用してこれらのトラックをコントロールすることはできません。インストゥルメント・モードを使用するには、バーチャル・インストゥルメントに割当てられたMIDIトラックを選択する必要があります。

Axiom ProのLCDディスプレイには選択したバーチャル・インストゥルメント名とそのパラメーターが表示されます。一例として、CubaseのEmbracerバーチャル・インストゥルメントを下図に示します:

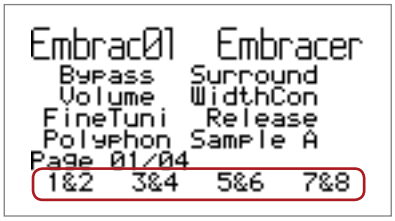


インストゥルメント・モードを使用する:

バーチャル・インストゥルメントのパラメーターはLCDディスプレイにリストされ、Axiom Proのエンコーダー・ノブ8系統に自動的にマッピングされます。左側のパラメーターは上段にあるエンコーダー・ノブにマッピングされ、右側のパラメーターは下段にあるエンコーダー・ノブにマッピングされます。

ソフト・キー2(VST)を押すと、コンピューターの画面にバーチャル・インストゥルメントのウインドウの表示/非表示を切替えます。インストゥルメントが画面上に表示されていれば、このボタンを押して最小化することができます。

バーチャル・インストゥルメントに9種類以上のパラメーターが含まれていると、コントローラーは複数のページにリストされ、ソフト・キー3と4(LCDディスプレイでは「< Page」と「Page >」と表示)を使用してアクセスすることができます。更に、インストゥルメント・モードでデフォルトのページが表示されている時、ソフト・キー1(LCDディスプレイでは「1-8」と表示)を押して、下図に示す通り、バーチャル・インストゥルメントのパラメーターのうち最初の8ページへ素早くアクセスすることができます。



「1-8」のソフト・キー1を押すと、一番左のソフト・キー(1&2と表示)により最初の2ページにアクセスすることができます(1度押すとページ1、2度押すとページ2にアクセス可能)。同様の方法で、ソフト・キー2ではページ3と4、ソフト・キー3ではページ5と6、ソフト・キー4ではページ7と8にアクセスすることができます。

1から8のページを解除して標準のインストゥルメント・ビュー(LCDディスプレイの下部に「pg1-8」、「VST」、「<Page」、「Page>」画面)に戻るには、F1(Mode)ボタンを2度押します。

© 2009 Avid Technology, Inc. 無断複写、転載を禁じます。製品の特徴、仕様、システム環境条件、在庫状況は予告無く変更になる場合があります。AvidとM-AudioとAxiom ProとHyperControlはAvid Technology, Incの商標または登録商標です。ここに記載されているその他全ての商標または登録商標はそれぞれの所有者に属します。

M-AUDIO
A part of Avid

www.m-audio.com

M-AUDIO
5795 Martin Road
Irwindale, CA 91706, USA

TECHNICAL SUPPORT
Visit the M-Audio Online Support Center
at www.m-audio.com/support

PRODUCT INFORMATION
For company and product information
visit us on the web at www.m-audio.com